

# 天使

PER CARITATEM  
AD VERITATEM

vol.39 August 2025

T E N S H I C O L L E G E

## 大学で得た学びを、未来の現場へ～見つけた私の「理想の管理栄養士像」～

栄養学科4年 岸本 真那

4年次となった今、学生生活を楽しみながらも、卒業後の理想の姿を少しずつ思い描くようになりました。大学生活を振り返ると授業や実習、アルバイトなど多くの経験を通じて、成長する機会をたくさんいただいたと感じています。

私は現在、給食委託会社から内定をいただいています。当初は病院での勤務を考えていましたが、福祉施設での実習を通して、栄養管理だけでなく、利用者一人一人に寄り添い、心理面や楽しみにも配慮した献立作りの大切さを学びました。調理方法や盛り付けの工夫、チームで支える姿勢に触れる中で、給食管理の仕事に魅力を感じるようになりました。

就職先を選んだ給食委託会社は、目に見えない部分でのお客様への配慮や、常により良い食事を追求する姿勢を大切にしており、私自身の「食へのこだわり」と重なる部分が多く、共感をもって入社を決めました。

また、大学1年次から続けているホームセンターでのアルバイトでは、幅広い年代のお客様と接する中で、相手の立場に立った対応や細やかな配慮を学ぶことができました。

大学での学びや実習、アルバイトで得た経験を活かし、私

は「人に寄り添う心のかもった食事」を届けられる管理栄養士を目指しています。毎日の食事に小さな安心と喜びを添えられるよう、社会人としての一歩を踏み出していきたいです。



## 在学生の今（将来の夢、目標）

### 疾病に応じた献立展開の難しさと学び



栄養学科3年 四竈 友菜

現在、臨床栄養学実習を通して、疾病に応じた献立作成の難しさと重要性を学んでいます。疾患によって摂取量や調理形態が異なるため、エネルギーコントロール食や軟菜食への展開を行う際は、栄養価を保ちつつ、患者さんに「食べたい」と思ってもらえるような献立にすることが求められます。しかし、実際に献立を考えていく中で、常食から変更する必要のない部分まで変えてしまい、別作りのような手間のかかる献立になってしまうこともあり

ました。調理実習では、自分で立てた献立を実際に調理し、例えば調味料の量が思っていたよりも薄味だったことや、彩りのバランスが想像と異なっていたことなど、机上では気づけなかった点を多く体験しました。さらに、食べやすさや食事への意欲にも配慮する必要があると感じました。これらの経験を通して、見た目や味、調理のしやすさなど、患者さんの立場や調理現場のことも考慮した献立を立てる力の大切さを実感しています。今後は、より患者さんに寄り添った献立作成ができるよう、実践を通して学びを深めていきたいです。

### 看護の奥深さを感じています～一つひとつ学びを積み重ね～



看護学科3年 山口 和穂

私は看護学生として3年目を迎え、大学での学習内容もより専門的・実践的になってきていると感じています。現在は講義や看護過程、実技演習などを通して疾患や治療に関する知識だけでなく、患者さんの背景や思いに目を向けて、理解しようとする大切さも実感しています。学習を通してこれまでの知識がつながる感覚や実際の看護場面を想像しながら学ぶ機会が増えて、看護の奥深さを日々感じています。

8月の末から各領域の実習が本格的に始まります。ただ、看護技術や看護過程など実習に向けて不安も沢山あります。

また、就職活動についてもまだ本格的に取り組むことができていません。将来に対する焦りも感じますが、これから実習を通して自分のペースで一つひとつ学びを積み重ねて、興味のある分野や自分の課題、強みに気づき、少しずつ将来像を明確にしていきたいと思っています。

3年生である現在は、課題も多く将来のことも考え始め、悩みや不安も多いですが、そういった気持ちから逃げずに向き合うことは自分にとって大切な経験になると思っています。この学びの時間を大切に、少しずつでも自分のなりたい看護師像を見つけ、それを形にしていけるように仲間と共に頑張っていきたいと思っています。

## 新入生意気込み（将来の夢、目標）

### 地域医療について学びを深めたい

#### ～自分自身 看護を振り返る機会となっています～



大学院看護学専攻1年 中山 友佳

あこがれだった天使大学大学院の入学から、早くも3ヵ月が経ちました。私は、芽室町の訪問看護体制構築事業での経験を通して、一人一人の利用者様にゆっくりと向き合い、その人の生き方を住まいという環境で支えていくことの楽しさや多職種連携の奥深さを実感しました。一方で、院内外との連携の中で、制度で補えない部分や関係者との温度差、地域の社会資源不足など、地域包括ケアシステムの難しさも痛感しました。こうした経験を通じて、地域医療が地域づくりにおいて果たす重要な役割に気づき、地域医療を維持していく方法や仕組みについて学びを深めたいと考え、大学院進学を決意しました。

仕事をつづけながら、十勝から通学し、対面とオンラインを組み合わせて講義を受けています。課題やプレゼンテ

ション、毎日の勉強や資料作成であつという間に日々が過ぎています。家族や職場からの応援、各領域で学ぶ仲間が存在が大きな支えや励まし、刺激となって、忙しくも充実した毎日を送っています。なかでも、事例を看護理論に基づいてアセスメントをする課題は、自分自身の看護を振り返る良い機会となっています。ディスカッションでの仲間や先生との意見交換から得られる気づきや学びは、新たな発見の連続です。

大学院での学びは、新たな知識を得るだけではなく、自分自身と向き合う中で得られる気づきや成長も大きな財産です。これから実習などの実践的な授業もはじまりますが、未来の専門看護師として、自分自身の成長を職場や地域に還元できるよう、前向きに学びに取り組んでいきたいと思ひます。

## 助産師という夢に向けて～日々学びながら、少しずつ夢に近づく毎日～



大学院助産研究科1年 上野 あかね

小さい頃から助産師に憧れ、看護の道へ進みました。進学を見送った時期もありましたが、臨床経験を重ねる中で「やはり助産師になりたい」という思いが強くあり、看護師3年目の秋に本学の社会人入試に挑戦し、合格をいただきました。夢への一歩を踏み出したことが嬉しく、入学を心待ちにしていたことを今でも覚えています。

本学は、全国で唯一の専門職大学院であり、助産師国家試験に必要な単位数より多い57単位を履修します。専門性の高い科目が細分化され、病院での21週間の実習に加え、6週間の助産院実習や統合実習が組み込まれており、実践的かつ多角的に助産学を学べる環境が整っています。こうした点に大きな魅力を感じ、進学を決意しました。

入学後は、全国から集まった個性豊かな25名の仲間と共に、妊娠期から産褥、新生児に至るまでの幅広い知識と技術を学び、日々成長を実感しています。グループディスカッションや課題解決型学習などを通じ、自ら考え行動する力も培われています。課題や試験の多さに戸惑うこともありますが、放課後には実技練習や学修に励み、互いに支え合いながら充実した日々を過ごしています。

また、専任教員によるメンター制度や、実習中のプリセプター制度など支援体制も整っており、安心して学びに臨むことができます。今後は、3年間の看護師としての経験を基盤に、どのような背景を持つ女性にも寄り添い、「あなたに担当してもらえてよかった」と思っていただけ助産師を目指し、学びを深めてまいります。

## 看護の道の第一歩～仲間と共に支え合いながら前へ～



看護学科1年 五十嵐 あい

入学式から約2ヵ月が経ち、やっと大学生活に慣れてきました。

入学前は、「大学生」という自分の姿を想像することが出来なくて、不安な気持ちでいっぱいでした。しかし現在は、日々の学びの中で看護師という職業の責任の重さとやりがいを実感しています。大学での授業は高校までとは全く異なり、座学だけでなくグループワークや看護技術の演習など、さまざまな形式で進められています。

一つ一つの授業が、将来患者と向き合う自分に直結していると思うと、自然と学びへの意欲が湧いてきます。

最近では、人体の構造や機能、基礎看護技術など、看護の土台となる知識を学んでいます。初めて聞く単語ばかりで戸惑うこともありますが、先生方が丁寧に指導して下さるこ

とで、少しずつ理解を深めることができています。毎日のように課題やレポートに追われていますが、優先順位を考え計画的に行う力が身に付き、一つ一つの学びが自分の力になっている実感があります。

また、同じ志を持つクラスメートとの学び合いも大きな励みになっており、互いに支えながら成長できる環境にとっても感謝しています。

看護の道は決して平坦ではありませんが、誰かの力になれる存在になるために、これからも努力を重ねていきたいと思ひます。今はまだスタート地点に立ったばかりですが、目の前の課題一つ一つに丁寧に取り組み、患者に安心と信頼を届けられる看護師を目指してまいります。そのためには、一日一日を大切にし周りの方々への感謝を忘れず、知識・技術・人間性をしっかりと磨いていきたいです。

## 入学してからの学び～登るべき山～



栄養学科1年 熊野 蒼

キャンパスマップと毎日らめっこしていた頃から脱出し、安心して楽しい日常生活を送れるようになりました。入学してみると学業やアルバイトや余暇をバランスよく行い、自己成長を追い求める理想の大学生活とはかけ離れていて、毎日予習や復習、授業での課題に追われ一日が一瞬で過ぎ去ります。時にはしんどいと感じることもありました。ですが私は天使大学に入学することが出来てとても幸せを感じています。なぜなら周りを見渡すと同じ目標を持った仲間がいるからです。どんなにしんどいことがあっても励ましあい、支えあう仲間が沢山いるため毎日充実した日々を送ることができています。

入学してすぐ行われた「出会いと親睦のゼミ」は私を大きく成長させてくれました。活動の中で学長の講話を聴く時間があり、そこで学長は「失敗と言うのはチャレンジして失敗することを失敗と言うのではない、チャレンジしないことを失敗と言うのです。チャレンジに失敗はない。」と仰いました。私はこの話を聴いて、今まで失敗を恐れてチャレンジしていませんでしたが、そもそもそれが失敗なのだ気づくことができました。今は小さなことでもまずはチャレンジすることを心がけています。チャレンジして感じたことは、私たちは

失敗することで学び、新しい自分になることが出来て、一歩前に進むことが出来るという事です。失敗した時とても心が苦しくなりますが、今振り返ってみると過去はすべて必要必然であり、「チャレンジして良かった」と思える日が来るのだなと実感しました。大学入学以前は自分から役員に立候補などしたことはありませんでした。やりたい気持ちはあっても、自分よりもっとふさわしい人間が沢山いると考え、行動に移すことをしていませんでした。ですが大学入学後思い切って役員に立候補したところ、周りから感謝されたり、自分という存在を皆に知ってもらえて交流の幅が広がりました。今後も出来ることにチャレンジするのはもちろんのこと、出来なさそうな事にもチャレンジをして自分の人生を豊かにしていこうと思ひます。

入学して三ヵ月間という短い期間で沢山の事を学ぶことができて私はとても幸せです。この恵まれた環境の天使大学で登るべき沢山の山を越えて、社会に良い貢献をできる人間になるために、まずは管理栄養士の卵として、一般的な知識だけでなく専門職として必要な倫理観やスキル、社会人としてのマナーを四年間でしっかり身に付けていこうと思ひます。そして仲間と一緒に今しかできない楽しく充実した生活を過ごしていきたいと思います。

## 2025年度 天使大学・北海道科学大学連携公開講座について



「いのちみつめて」をテーマに、医療、薬学、看護学、栄養学の各分野から、生活に役立つ情報をわかりやすく解説します。昨年度に引き続きYouTubeによるオンデマンド配信で実施します（事前の受講申込が必要です）。

○期間（予定）：2025年10月～12月

○申込方法：天使大学ホームページより申し込みを行ってください。

※申込ページは9月中旬頃 掲載予定



### ○講座内容

テーマ名	講師
人生100年時代の健康づくり～今から始めるフレイル予防～	天使大学 看護栄養学部看護学科 浅井 さおり 教授
食中毒のはなし～簡単にできる食中毒予防～	天使大学 看護栄養学部栄養学科 岩淵 絵里子 准教授
人と生きるということ～愛着と well-being ～	天使大学 看護栄養学部教養教育科 服部 健治 准教授
食物アレルギーの原因と社会生活における課題	北海道科学大学 薬学部薬学科 柏倉 淳一 教授
インフルエンザウイルスとノロウイルスの感染対策について	北海道科学大学 保健医療学部臨床工学科 古谷 大輔 教授

※テーマ名は一部変更になる場合があります。

## 新任教員紹介

### 「モヤっとする」新人職員を研究する



助産研究科教授 藤井 宏子

今年度4月に着任いたしました、助産研究科の藤井宏子と申します。私は、岡山大学修了後、広島市内の総合周産期母子医療センターに勤務しました。年間1000件近くの分娩に加え救急搬送の受入れ病院もあり、マルチタスクを伴う上に業務も多く、特に新人時代は苦労しました。先輩方のご指導により無事1年目を終え、その後は私自身も先輩となり、いろんな新人助産師と一緒に仕事をしました。10年程度経った頃、「モヤっとする」新人が就職してきました。勤務先は地域の母子の最後の砦でもあり、このままだと将来大変なことになると感じました。大学院進学のごきっかけは「モヤっとする」新人をどのようにして組織のメンバーとして育てるか、という問

### 助産師の実践能力の向上を支援する研究



助産研究科准教授 森川 由紀

4月より大学院助産研究科に着任いたしました。私は本学の前身である天使女子短期大学専攻科を修了後、総合病院に就職しました。そこでは産科や訪問看護ステーションなど、さまざまな場で臨床経験を積む機会に恵まれ、本学で取得した資格を活用させていただきました。私の教員としてのスタートもまた本学でした。母性看護学領域に助手として勤務していた本学校舎に約20年ぶりに入り、新しく建てられた2号館のラウンジの大きな窓から注がれる光の中を通ることが、何よりの楽しみになっています。

専門は「助産学」と「看護職者のキャリア発達」です。卒業後の助産師が実践能力を形成するために必要な支援について研究し

### 保健師の連携に関する研究



看護学科講師 岡田 尚美

本年4月に看護栄養学部看護学科に着任いたしました。現在は、学部の地域・在宅看護学領域と大学院保健師コースの科目を担当しています。天使大学との関わりは、市町村保健師をしていた時、実習生を受け入れたことが始まりです。家庭訪問と一緒に出かけ、対象者の看護を真摯に学ぶ姿に、さすが「愛の天使」と感じた思い出があります。

保健師は、赤ちゃんから高齢者まで、そして健康な方、疾病や障がいのある方など、様々な方々への支援を行います。その際に、多くの職種や機関と状況に合わせて連携を行う必要があります。連携の方法、「技（わざ）」は上司や先輩達の背中を見て学ぶこと

### 臨床は学びの宝庫：新たな知見を加えて次世代に伝える



看護学科講師 村中 沙織

私は、28年間の看護師経験を経て4月に天使大学に着任しました。そのうち26年間は大病院の救命救急センターで勤務し、救急看護に携わってきました。今でも、救急車のサイレンを聞くと心と体が反応してしまいます…それほど、救急の現場は私の中に深く根づいているのだと感じています。

生死の境にある患者さんとご家族に向き合う中で、看護師としてどのように関わるべきかを深く考えるようになり、現在天使大学大学院で指導にあたられている城丸瑞恵先生のもとで学び「急性・重症患者看護専門看護師（CNS）」の資格を取得しました。その後大学院での学びをもとに、貴重な患者さんとの経験をよりよい実践につなげたいと考え、「臨床での看護の実際とその効果」を明らかにするための研究を進めています。中でも、生命危機が

いにありました。

研究は社会化理論に基づき行いました。結果、「モヤっと」の正体は、知識や技術の未熟さではなく、職業意識にあることがわかりました。その後の研究も、どのようにして職業生活を円滑に進めるか、という問いに基づき検討しています。現在は助産師の分娩介助技術や診断過程を可視化し、特に若手の技術修得に貢献すべく検討しています。

学生時代は、自分が研究を生業にするとはいっていませんでした。天使大学の修了生でもなく、北海道に縁もありませんでした。研究への道、北海道への異動等、人生は不思議な縁の積み重ねだと実感します。日本で唯一の助産学の専門職大学院での教育・研究に貢献できるよう従事したいと思います。

ており、この関心は「新人助産師が安心して成長できる環境づくり」への思いから生まれました。博士課程進学後は、助産学生の方の分娩期の臨床実習前後の客観的臨床能力試験（OSCE）の意義と課題についてまとめました。また、実際に病院や助産所で勤務されている経験豊かな助産師に協力を得て、能力の高い実践について質的調査を実施し、それらのデータから分娩期の助産実践能力を自己評価する尺度を開発しました。

今後は、卒業後の助産師のキャリア発達支援や潜在助産師が安心して現場復帰できるプログラムの開発に取り組みたいと考えています。学生の皆さんが安心して学べる環境を整え、共に成長し、助産師教育ならびに本学の発展に貢献してまいります。

が多かったのですが、どのようにしたらスムーズな連携がはかれるのだろうと日々考えていました。その後、大学院に進学するとともに大学教員となり、主に親子への支援に対する保健師の連携に関する研究を始めました。ベテラン保健師や連携職種の方々へのインタビューやアンケート調査を通して、具体的な連携の活動を明らかにする研究を行ってきました。連携は、単に連絡を取り合うことではなく、目的や役割を明確にし、段階を踏み継続的に関わり合うことが求められます。今後は研究成果を活かし、保健師の基礎教育の中で連携の力を高める方法を追及していきたいと考えています。

長期にわたるため集中治療管理の期間が長く、社会復帰まで幅広い支援が必要となる重症熱傷に着目してきました。

臨床での看護実践には、先人が大切にしてきた内容も多く含まれています。私自身も先人の知恵を基に患者さんやご家族との関わりを通して得がたい経験を積み重ね、その中から多くの学びを得て成長してきました。臨床は学びの宝庫と感じていますので、これからもクリティカルケアに関する看護実践の共有や小さな知見を大切に考え、次の世代に伝えていけるように研究を進めていきたいと考えております。

天使大学には専門看護師の資格を持つ先生が多数在籍しています。私自身の長い臨床での看護師経験を生かしながら、学生のキャリア形成を支援していきたいと考えております。

### 経験を活かし伝える



看護学科助手 山口 絵里子

私は、助産師として13年間病棟で勤務し、妊産婦や新生児、その家族へのケアを行ってきました。分娩に立ち会い、新しい命の誕生を間近に感じる日々の中で、この仕事の尊さと責任の重さを実感し、やりがいをもって取り組んできました。また、プリセプターや実習指導者として後輩や看護学生の育成にも関わり、母性看護や助産師という職業の魅力を伝えることにも喜びを感じていました。自身の妊娠・出産・子育てを経験したことで、ライフステー

### DOHaD：病理学と栄養学のつながり

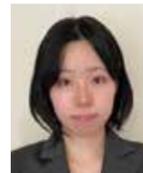


栄養学科教授 小山田 正人

私は、札幌医科大学医学部在籍中より病理学病室で基礎研究を行ってきました。病理学とは、その言葉通り、病気の理（ことわり）つまり病気の原因とそれによる変化の過程を明らかにする学問です。WHO 国際癌研究機関（フランス・リヨン）留学を間にはさみ、札幌医大と京都府立医大の病理学教室で、研究、教育に携わりました。2010年度より2024年度まで、藤女子大学の食物栄養学科で、医師教員として授業を担当し、2020年度からは天使大学の非常勤講師も務め、本年4月より天使大学に着任しました。

専門は病理学で、細胞間コミュニケーションの異常をテーマに、がん組織や心筋梗塞などに関する研究を行ってきました。2010年度より、栄養学の教育・研究を開始することがきっかけとなって、DOHaD

### 病院勤務での経験を活かして



栄養学科助手 岡 捺未

私は天使大学卒業後、臨床分野に興味があったことから病院に就職しました。病床数や診療科が多かったため、様々な症例の栄養管理や栄養相談を経験できてやりがいがあった一方で、入職当初は不安や緊張が大きく、複雑な症例の栄養管理に難渋したり、自分の知識不足を痛感したりすることが多かった日々でした。

その中で印象に残っていることが、循環器内科、消化器内科の病棟担当管理栄養士として働いていた時です。循環器内科では心疾患の患者様が多く入院しており、心不全は良い状態と悪くなる状態を繰り返す病気なので再入院する患者様も多くいました。そのため、いかに患者様の良い状態を維持し、再入院を防ぐため、多職種と連携し情報共有をしなが、入院から退院後までの生活全体をサポートする働きが必要でした。減塩食をはじめとした栄養管理と栄養相談が中心でしたが、患者様の栄養状態や生活状況に応じて具体的なアドバイスができる知識を身につけ、患者様と一緒に取り組んでいけそうなことを考えな

### 関西出身、道東勤務の経験をいかして



教養教育科准教授 服部 健治

主に道東で小学校・特別支援学校の教師をしていました。教師経験のほとんどで、特別支援教育に携わっていましたが、思うところがあった教師を辞め、釧路短期大学の幼児教育科の教員になりました。短大では、心理学や発達、障害のある幼児の支援に関わる授業などを担当していました。そんな経験を経て、今回、天使大学でお世話になることになった次第です。（よろしく申し上げます）

私の研究テーマは、社会資源の少ない地域における特別支援教育並びにインクルーシブ教育の推進です。道東は、大きな都市と比べると社会資源が少ない地域です。それは、有形無形に子どもの育ちや学びに影響します。そのような地域特性による影響をに

ジの変化に伴い、キャリアについて真剣に考えるようになりました。そして、これまでの臨床経験を次世代の看護職育成に活かしたいという思いが強まり、インストラクターとして勤務を開始しました。この経験が天使大学との出会いとなり、ご縁をいただき現在助手として勤務しています。臨床での経験と母としての視点を活かし、学生に寄り添いながら、母性看護の魅力と助産師としての専門性、そして人と人とのつながりの温かさを伝えていけるよう努めています。

(Developmental Origins of Health and Disease) に研究テーマを移行しました。DOHaD は、妊娠前、妊娠中から出生後の2歳位までの約1000日間の栄養を含む環境が、成人期の疾患（生活習慣病）の発生に重要な役割を果たすという理論です。DOHaD 理論の理解度についての調査研究を、ニュージーランド、オークランド大学の Bay 博士らと共同して行っています (J DOHaD, 9: 253, 2018)。

学部教育では、学生さんの主体的な授業への関わりと理解度を高めるため、講義に加えて、グループワークを含めた「チーム基盤型学習」を進めていきたいと考えています。また、学部教育、大学院教育および研究では、日々急速な進化を続けている「生成 AI」を、自らの能力を高める「賢い友だち」として、情報の真偽を見極める「批判的思考（クリティカルシンキング）」を養い、より質の高いリサーチを行っていきたくと思っています。

から、「やってみよう」と思えるような信頼関係を築くことが大事であると痛感しました。

また消化器内科では、化学療法・放射線療法のため入院する癌患者様が多く、栄養障害に加えて治療の副作用や精神的ストレスで食欲が落ちている方がほとんどでした。多職種でカンファレンスを行い、病状の情報共有、患者様本人と家族へのヒアリングを通して、食べられない原因を探りながら、病状に応じた栄養補給を考える必要があるの同時にベッドサイドにて患者様と相談しながら、食べられる物を一緒に考えていました。当時は最善を尽くした栄養管理、食事相談が出来ているのかと悩みながらも、患者様が喜んで少しでも食べていただいた時はやりがいを感じました。

このご縁があり天使大学へ入職させていただきました。卒業後、学生時代に学んだ知識や経験に助けられたことが多くあったことを覚えています。これまでの経験を活かして、学生の皆さんのお手伝いができればと思うのと同時に、日々、自分自身も学んでいきたいです。

接し、しかし、そのような地域でも「障害のある子どもが幸せに過ごせるためには？」という問題意識をもったことが研究の動機です。研究内容は、多層的な地域ネットワーク形成、社会資源の少ない地域に資源を生み出す方法論やその実践、保護者のエンパワメントの試み、などなのです。現在は、これまでの研究を踏まえて、地域の個別性を踏まえたインクルーシブ教育の実現に必要な事柄について、多角的に研究をしています。すべての子どもが守られ、一度きりの、一人ひとりのかけがえのない「子ども時代」が幸せなものになるように願って、研究を続けたいと思っています。

よかつたら研究室に遊びに来てください！ みなさんと色々な話ができれば嬉しいです！！

## 学長挨拶

### 天使大学が専門職を養成する意味 ～天使大学のミッションから考える～

学長 二宮 信一



天使大学が養成している看護師、保健師、助産師、管理栄養士、栄養士等は、「いのちと健康」に関わる臨床/実践の専門職です。専門職の専門職たる所以は、その「専門性」にあるのですが、何をもち「専門性」というのかという問いは、これまでそれぞれの専門職の領域（医学・法学など）や特性（基礎・応用・実践という階層性）によって論じられてきました。

専門職は、近代社会の発展の中で、実証的な科学と技術に基づく「技術的合理性」を基礎原理として「技術的熟達者」として位置づけられてきました。ですから一般的に専門職とは「高度な知識や技術を有する職業人」と定義されています。現在でも様々な領域の専門職（医師・弁護士など）を養成する大学のカリキュラムもそれに基づいて構成されてきています。

佐藤<sup>※</sup>によると、この「技術的熟達者」は、それぞれの領域の専門的知識と科学的な原理・技術で規定されますので、その実践や力量は、それらの合理的適応（技術的実践）とその習熟度によって測られます。よって、技術的に熟達することが高度な専門職として位置づけられるという仕組みが出来上がってきたといえます。つまり、目の前にある課題には、複雑な状況や事柄があるのですが、客観的で厳密性と科学性を志向する中で、可能な限り単純に明示できる概念や原理に抽象化・一般化して、個別の状況を超えた普遍的で原理的な立場で理解をし、確実性を求める実践を志向することになっていったのです。

このような「専門職像」に対し、1980年代 D.Schön<sup>※</sup> は「専門家は、行為しながら考えている」として専門職の「専門性の在り処」を探りました。彼は、専門職の専門性を、「主体的に目の前にある不確実な課題に関与してクライアントと生きた関係を結び、省察と熟考によって問題を整理し、多様な解決策の中から最適解を選択し判断する実践的な見識」にこそ専門職の「専門性」があると考えたのです。彼はそれを「省察的実

践家<sup>※</sup>と名付けました。

佐藤は、専門職の専門性は、知識・技術の習得や熟達に留まらず、問題解決過程で形成される実践的認識の発達にあると整理しています。科学的原理や理論的知識や合理的技術を自分の持ち札として活用しながら、単純に見える個別で具体的な状況や事柄に含まれている多義的な意味の複雑さや豊かさを発見し、柔軟で繊細に「省察」と「熟考」を重ね、課題を解決していく実践の見識の成熟度こそが「専門性」とあるといえます。例えば「目の前にいる患者の幸福は何かを考える」というような「人に寄り添う」ことの中にこそ専門性あると考えてもよいでしょう。

1935年のローマ教皇ピオ11世の「奉仕活動にあたる者は、高度な看護教育を受けるように」という推奨を受け1947年に札幌天使女子厚生専門学校として開学した本学は、看護及び栄養に関する専門職の養成を始めました。本学の建学の精神「愛をとおして真理へ」という言葉には、3つの柱があります。「自分自身を見つめる内省性」「キリスト教の価値観に基づく学修と研究」「世界の人々とともに歩もうとする人間愛」です。「内省」という言葉を実践的に捉えたならば、その延長戦上には「省察」と「熟考」というキーワードあり、親和性があります。また単に「学修・研究」をするのではなく「キリスト教の価値観」という中に示される「目の前にいる人々に寄り添う」ことや「病んでいる社会をより良くしていく」という研究と学修の方向性が示されています。そして「世界の人々とともに歩む」という社会貢献の使命も示されています。

現代社会の不確実性や不安定性の中で活躍する専門職は、自分の仕事を限定的なものとする“specialist”としての「専門職」ではなく、臨床における複雑で複合的な状況の中でクライアントの課題に向き合う“profession”としての「専門職」が求められていると思うのです。“profession”の語源は“profess”です。「神のお告げ（profess）」を受けた専門職の養成が本学のミッションなのです。

#### 文献

佐藤学「教育方法学」岩波書店 1996、D.Schön「専門家の知恵」ゆみ出版 2001、三輪建三「省察的実践」医学書院 2023

#### 学長略歴等

1954年生まれ、北海道枝幸郡枝幸町出身 研究分野は、発達障害、特別支援教育、インクルーシブ教育  
2002年北海道大学大学院教育学研究科教育学専攻修士課程修了（教育学修士）  
2011年北海道大学大学院教育学研究院博士後期課程単位取得満期退学 北海道教育大学教育学部釧路校教授、特任教授を経て、  
2023年4月より天使大学看護栄養学部教養教育科 教授

## 2024年度 進路・就職状況

学科・研究科	看護学科	栄養学科	大学院助産研究科	大学院看護学専攻	大学院栄養管理専攻
就職決定者	70	88	20	9	1
進学決定者	23	0	0	0	0
進路希望無し	3	5	0	0	1
卒業者	96	93	20	9	2

### 【看護学科】就職・進学先

看護師		進学
<b>国立病院</b> ・独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター ・独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター ・独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO) 北海道病院 ・独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO) 札幌北原病院  <b>大学病院(国公立)</b> ・北海道大学病院 ・旭川医科大学病院 ・札幌医科大学附属病院 ・筑波大学付属病院  <b>大学病院(私立)</b> ・慶應義塾大学病院 ・東京女子医科大学病院 足立医療センター ・北里大学病院 ・東海大学医学部付属病院 八王子病院 ・日本医科大学付属病院	<b>公立・公的・社会保険関係法人の病院</b> ・北海道道立病院局 ・留萌市立病院 ・国家公務員共済組合連合会 KKR札幌医療センター ・JA北海道厚生連 札幌厚生病院 ・JA北海道厚生連 倶知安厚生病院 ・JA北海道厚生連 帯広厚生病院 ・国家公務員共済組合連合会 斗南病院 ・国家公務員共済組合連合会 九段坂病院 ・国家公務員共済組合連合会 斗南病院 ・日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第一病院 ・兵庫県立丹波医療センター  <b>クリニック</b> ・医療法人相美会	<b>一般病院</b> ・社会医療法人母恋 天使病院 ・社会医療法人 檜心会 札幌檜心会病院 ・NTT東日本札幌病院 ・JR札幌病院 ・社会医療法人 社団 愛心館 愛心メモリアル病院 ・医療法人 深仁会 手稲深仁会病院 ・社会医療法人 柏葉会 札幌柏葉会病院 ・社会医療法人 北楡会 札幌北楡病院 ・社会医療法人 医仁会 中村記念病院 ・医療法人 社団 五風会 さっぽろ香雪病院 ・医療法人 重仁会 大谷地病院 ・医療法人 徳洲会 札幌東徳洲会病院 ・社会医療法人 恵佑会 札幌病院 ・医療法人 社団 研仁会 北海道脳神経外科記念病院 ・医療法人 社団 五稜会 病院 ・社会医療法人 北農会 恵み野病院 ・IMSグループ 医療法人 社団 明万会 板橋中央総合病院 ・東京通信病院 ・社会医療法人 財団 石心会 川崎幸病院
		<b>看護系大学院</b> ・天使大学大学院 助産研究科 ・天使大学大学院 看護栄養学専攻科 看護学専攻 保健師コース  <b>看護系その他</b> ・北海道科学大学 公衆衛生看護学専攻科 ・札幌医科大学 専攻科 公衆衛生看護学専攻 助産学専攻

### 【栄養学科】就職先

<b>自治体</b> ・札幌市(栄養士) ・知内町(栄養士) ・東京都(栄養士)  <b>教育機関</b> ・北海道教育委員会(栄養教諭)  <b>福祉施設</b> ・社会福祉法人 美瑛慈光会 ・社会福祉法人 緑陽会 ・社会福祉法人 友朋会  <b>保育所</b> ・社会福祉法人 北栄福祉会 北栄保育園 ・社会福祉法人 幸友福祉会 開成みどり保育園	<b>病院</b> ・医療法人 深仁会 手稲深仁会病院 ・社会医療法人 檜心会 札幌檜心会病院 ・医療法人 徳洲会 札幌東徳洲会病院 ・医療法人 社団 大蔵会 札幌佐藤病院 ・医療法人 深仁会 定山深病院 ・社会医療法人 製鉄記念室蘭病院 ・医療法人 社団 函館脳神経外科 函館脳神経外科病院 ・日本赤十字社 北見赤十字病院 ・医療法人 社団 慈誠会 光が丘病院 ・医療法人 社団 東光会 西東京中央総合病院 (TMGグループ) ・武蔵野赤十字病院 ・社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷横浜病院 ・医療法人 社団 新虎の門会 新浦安虎の門クリニック ・医療法人 ル・プラン おぎはら歯科医院 ・医療法人 社団 斎藤会 さいとう歯科	<b>給食委託会社</b> ・エムサービス株式会社 ・株式会社LEOC ・株式会社魚国総本社 ・株式会社グリーンハウス ・日清医療食品株式会社 東京支店 ・ジャルロイヤルケータリング株式会社  <b>調剤薬局</b> ・株式会社 アインファーマシーズ ・株式会社 ハートフルメディカル	<b>一般企業</b> ・石屋製菓株式会社 ・株式会社柳月 ・株式会社魚国総本社 ・株式会社アレア ・株式会社牧家 ・サンマルコ食品株式会社 ・株式会社伊藤園 ・日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社 ・北海道プリマム株式会社 ・株式会社 リカーマウンテン ・株式会社 増田製粉所 ・岩田醸造株式会社 ・株式会社 フィットクルー ・エムエムエスマンションマネジメント株式会社 ・株式会社 東日本日商エステム ・株式会社 ツルハ ・株式会社 サッポロドラッグストア ・株式会社 サンドラッグプラス ・株式会社 サンドラッグ ・株式会社 トモズ ・株式会社 サンキュードラッグ
--	--	--	---

### 【大学院】就職先

<b>助産基礎分野</b> ・札幌東豊病院 ・天使病院 ・JCHO北海道病院 ・北海道大学病院 ・市立札幌病院 ・苫小牧市立病院 ・王子総合病院 ・八雲町八雲総合病院 ・釧路赤十字病院  ・聖路加国際病院(東京都) ・東京女子医科大学病院(東京都) ・防衛医科大学校病院(埼玉県) ・東京大学医学部附属病院(東京都) ・東京科学大学病院(東京都) ・昭和大学病院(東京都) ・聖母病院(東京都) ・横浜市東部病院(神奈川県)	<b>看護学専攻修士課程</b> ・生活協同組合 コープさっぽろ ・札幌市 ・新冠町 ・士幌町 ・厚沢部町 ・芽室町 ・中標津町 ・日高町 ・天使大学実習指導教員
--	--

## 選抜結果

看護学科			栄養学科			看護学専攻			助産研究科助産基礎分野		
選抜種別	受験者数	合格者数	選抜種別	受験者数	合格者数	選抜種別	受験者数	合格者数	選抜種別	受験者数	合格者数
指定校推薦	7	7	天使みらい	50	50	推薦型	2	2	推薦型	18	13
公募制推薦	58	43	指定校推薦	1	1	一般Ⅰ期	14	7	一般Ⅰ期	11	8
社会人	0	0	公募制推薦	18	18	一般Ⅱ期	6	1	社会人Ⅰ期	3	3
一般	263	83	社会人	0	0				一般Ⅱ期	1	1
共通テスト利用	179	75	一般	31	30				社会人Ⅱ期	0	0
			共通テスト利用	34	22						

## 合唱コンクールをとおして得たもの



栄養学科3年 佐藤 まゆ子

大学生、出場2回目の合唱コンクール。参加者は私を含めて合計8人でしたが、普段仲の良い友人たちの間ではかなり盛り上がっていたため、初めは「参加者が少ない」という意識はありませんでした。しかし練習を重ねる中で、他学年のクラスとの人数差や声量の違いを感じ、本番の日が近づくとつれて参加メンバーの不安は日に日に大きくなっていくように感じます。

私たちの代は、1年次の合唱コンクールが新型コロナウイルスの影響で実施されませんでした。そのせいか、去年から再び開催されるようになった合唱コンクールへの参加意識は薄いままのようです。私たちは“参加者が8人”という事実を踏まえて選曲をし、若干の不安

を抱えながらも「地球星歌」の練習を始めました。練習の中では、ソプラノとアルトの比率や強弱をつける箇所の見直しなど、細かい調整を行って本番に臨みました。本番では、ものすごい緊張を感じながらも練習の成果を発揮することができ、目標としていた優勝をすることができました。後でわかった話ですが、みんな手足が震えるくらい緊張していたみたいです(笑)

今回、合唱コンクールに向けてみんなで集まって練習した日々は、今後何かを頑張るための糧になりました。また、目標としていた「優勝すること」の実現をうれしく思うと同時に、クラスみんなと歌えたらもっと素敵だろうと思うので！クラスのみんなへ、来年は一緒に合唱しようね！！！！



## 共に歌い、ともに歩む ～2年間の絆とこれからの希望～



看護学科2年 竹田 菜々夏

天使大学の伝統行事の一つである合唱コンクールにおいて、看護2Bは学長賞という名誉ある賞をいただきました。実はこの学長賞には私たちにとって深い思い出があります。1年生の時に参加した合唱コンクールは、A・Bクラス合同で「花は咲く」を合唱しました。しかし、まだ学校にも慣れておらず打ち解けきれない中での練習・本番になってしまいました。本番は緊張で上手く歌えず、悔しさが残る合唱でした。それでも、ありがたいことに学長賞を頂くことが出来ましたが、心から納得する合唱にできず、「来年はまたみんなでリベンジしよう」と意気込みました。そして迎えた今年の合唱コンクール。A・Bクラスは分かれてしまいましたがBクラスとして再び学長賞を目指し、授

業の合間を縫って必死に練習を重ねました。本番では、1年前よりさらに団結力が上がり、全員が満足した合唱をすることができました。また、学長賞にもリベンジすることが出来ました。合唱コンクールだけではなく、日々の授業や演習を通して私たち看護学科の絆はどんどん深くなるばかりです。2年生後期からは基礎看護実習が始まり、初めて患者様を受け持つこととなります。これまで行事や演習で深めた絆を力に、卒業までみんなで支え合いながら頑張っていきたいです。そして、やりたいことにたくさん挑戦していきたいと考えています。もちろん、大学生として今しか出来ない遊びやサークル活動にも力を入れつつ、日頃の勉強を頑張りながら充実した大学生活を過ごしていきたいです。



## 天使祭を実施して～天使祭をとおしての学びと気づき～

天使祭を準備してきた半年間は多くの学びと成長を感じた半年間であったと感じています。今年度の天使祭は「煌星(きらぼし)」というテーマの元に進めていくことが決まったのが今年の2月でした。そこからは怒濤の半年を過ごしたと感じています。そんな中でも例えば準備を行っていく中で、最初は気をつけていたことも天使祭当日が近づくとつれて対応していく事が多くでてきて気をつけていたことも、忘れていたことがあったとも感じ焦っている時ほど一度落ち着く時間を持って焦らず、人に頼ってみることが大切だとも感じました。また今年度は新しい企画を考え企画運営を行えるようにルールを決めるなど、これまでにない新しいことに挑戦していく天使祭にしようというのも私の中で一つの目標とした天使祭でした。今年度は、前夜祭を復活させて新企

栄養学科2年 渡辺 梁雅



画であるジュエリーハントや昨年度までお声がけしていなかった外部の団体様にも多くお声がけをさせていただきこれまで以上にテーマである煌星のように明るく参加した方々の笑顔が煌めく明るく活気のある天使祭にすることが出来ました。

そして私は、当日である一般公開1日目に栄養体験で地域の方々や交流しているときに、毎年楽しみにしていると云われたときに天使祭は、地域の方々や密接に関わっている大切なイベントであるとも実感しました。

また、天使祭3日間が無事に行われて地域の方々や学生が楽しそうにしている様子をまとめたエンディングムービーが流れているときに、やってよかったと達成感を感じました。



あなたの声をお聞かせください

学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。

ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先/〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天使大学広報委員会 tel.011-741-1051 fax.011-741-1077



天使大学

看護栄養学部/看護学科・栄養学科  
大学院/看護栄養学研究所・助産研究科(専門職学位課程)

〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30  
TEL.011-741-1051 FAX.011-741-1077

第39号 2025年8月1日発行 天使大学広報委員会

<https://www.tenshi.ac.jp>

